

## 留守番のあなたへ

常葉綾子

秋田県・六六・主婦

お父さん。旅の第一日は、お天気もばっちり。笑って笑って、今はみな、すうすう眠ってしまいました。言われた通り非常口は明るいうちにちゃんと確かめました。潮さいを聞きながらあなたのことを考えています。

下着は一日分ずつ組ませてありますから、靴下もそっくり取り替えてください。冷蔵庫の中は日付通りに食べているでしょうか。野菜も忘れ

◎◎◎優秀賞

ないで下さい。晩酌のあと、うたた寝をしていないかと心配です。

あなたが退職してから一〇年余り、毎日顔を突き合わせてきましたね。何かと指図の多いあなたに、大正一けた<sup>ひと</sup>・大正一けたと内心反発していました。せめて旅行ぐらいいは女同士でと、渋るあなたからやっともらったゴーサインでしたね。でも、「家内をよろしくお願いします」と、みんなに深々と頭を下げてくれた時は、思わず胸がキュンとなりました。

あなたと離れ離れの旅は今回限りになります。今度はあなたのプランで、あなたの好きな静かな街へお供します。あなたの得意な城にまつわる悲しい物語や、潔い言い伝えも、じっくり聞いて心に留めましょう。今までも随分教えてもらったはずなのに、いつも上の空。城主や軍師の名が脈絡もなくただ浮ぶだけです。ごめんなさい。

もう家の事は、きっぱり心から放します。あなたの厚意にこたえるためにも、存分に楽しんで帰ることにします。

あ、それから明け方の寒さに目を覚ます頃、いつも黙って布団を掛けてくれましたね。私は決まって寝返りを打ち、気付かぬ振りをしていました。……。ついでに有難うを言わせてください。

「残された月日を考えると勿体なくて夫婦げんかなど出来ない」とのAさんの言葉が、今度の旅の一番の収穫になりそうです。

お土産に、からすみを買って帰ります。

お休みなさい。